

コロナ禍のなかの放泉会

社会福祉法人 放泉会

会長 瓜坂 正之
理事長 瓜坂 尚之

令和三年度が始まり、早三カ月が過ぎました。新型コロナウィルスが確認されて一年半が過ぎましたが、未だコロナ禍の只中にあります。そのような状況下で発生する、様々な問題を解決する術を各分野において、開拓しなければならぬ状況です。中でもICT技術があらゆる方面で浸透したスピードは近年では目を見張るものがあるように私には感じられます。

リモートワークは勿論の事、学校においても新たな教育の模索として「学びを止めないために」オンラインでの授業が行われています。小学校、中学校では「GIGAスクール構想」なるものにより、一人一台学習用パソコンが与えられ、ネットの使用や、自宅学習にも利用できるような計画されているようですが、そういった教育を受けていない世代にとっては、少なからず苦難を強いられる方もおられたのではないのでしょうか。

そのような中で、ある大学では、ICTスキルの乏しい教員を学生がサポートすることで、オンライン授業を軌道にのせ、また問題解決に積極的に取り組む中で、コミュニケーションが密になるといふ利点が生まれたと聞きました。

新型コロナウィルスは、一人一人の人間にとって、重大な問題をもたらしています。しかし、そこから学び、問題に立ち向かう知恵を私たちは備えています。その一人一人の知恵をそれぞれの組織が集結し、また新たな道を開拓しているのを見聞するたび、闇の中にも確かな光を見つけることができます。

福祉施設に限らず、人をお相手とする職業においては、リモートワークは到底できる事ではありません。人と人との繋がり、心が全てです。

当法人に限った事ではありませんが、職員はこの間、感染予防に命を守る努力をしていることでしょうか。自分に与えられた職務を全うするために、自粛も当然のこととして受け止め、粛々と日々を送っています。

それは、このコロナ禍においても変わらず、法人理念である、ご利用者の方には「快適」を家族の介護を行うことが、職員の「充実感」に繋がり、立ちほだかる壁も、職員一人一人の知恵を集結することで、新たな道を開き、一歩ずつ確実に乗り越える動力となつていきます。新型コロナウィルスの襲来は決して喜べることではありません。しかしこの体験から得るものはきっと大きいはずで、職員のひたむきな姿は、ピンチをチャンスに変える！放泉会の将来にとって、窮地を前進への大きな一歩に変える！、そんな強い力を備えているのだと、確信させてくれるのです。

新型コロナウィルスの接種で状況がどの様になるのか、今はまだ予想できませんが、収束は近いと信じ、「快適」「安心感」「充実感」という三つの柱を大切に、この頼もしい職員と共に、荒波を乗り越えていこうと思います。

今日までのご厚情に感謝致しますとともに、今後ともご支援賜りますようお願い申し上げます。

「芝生広場計画」現在進行中!

令和二年五月一日、全ての利用者の方の引越しが完了し、特別養護老人ホームさわらび苑は三十五年一か月の歴史に幕を下ろしました。

サンシルバーさわらびの新施設開苑後は、当時の規則で、旧施設の年度内解体報告を行わなければならない為、早々に解体工事に着手し年内には完了。整地された広い土地になりました。

整地後どのように活用しようか様々な発案がされておりましたが、芝生広場を計画しました。芝生のねらいのひとつに、保育園の子供が近所のお散歩だけでなく、少しだけ遠くまで足を伸ばせる、お出かけ先として訪れてもらうこと。そしてこの広い土地で遊びやスポーツをするのに天然芝生は転んでも痛くない、怪我の心配も少ないので、思いつきり動き回って楽しく遊べるスペースになると思います。

芝生は「鳥取方式」と言われる方法で、約五十センチ間隔で穴を掘りポット苗を植えていきます。全部で約二、〇〇〇㎡もの広さがある為、まだまだ芝生と言えない形ではなく、今はまだ完成予想図には程遠いものです。しかし、子供たちが裸足で走り回っている姿を想像して、この広大な広場の水やりを日々行っております。

ただ、人間の力では暑い夏を目前にすると、やはり限界もありスプリンクラーを設置しました。機械の力を少し借りつつ芝生広場計画は現在進行中です。

また、この広場には、さわらび苑の代名詞にして、唯一残された、ラヂウム鉱泉。ふれあいの湯が次の活躍の時を静かに待っています。

一面緑色に染まったこの広場とラヂウム鉱泉を、子供たちのみならず、さわらび苑をこれまで愛して下さった地域の方々に、健康維持やグラウンドゴルフなどなど、お気軽に活用頂くことで更なる交流を深めて頂ければ。そして、それが御恩返しの一助になれば幸いに存じます。



ふれあいの湯(ラヂウム鉱泉)



芝



完成予想図

壁時計を設置しました

サンシルバーさわらびの開苑を記念して、四階の外壁部分に壁時計を設置しました。

下から見上げると大きさは分かりにくいのですが、この文字の大きさが一つが三十センチなんです！意外と大きんだなど少し驚きました。交流の難しいコロナ禍の昨今、皆様の話題の一つにでもなれば良いのですが、そしてコロナ収束の暁には、この時計を見に沢山の皆様にお越し頂けたら嬉しい限りです。

サンシルバーさわらびと共に地域のシンボルとして、ウィズコロナ・アフターコロナの時代も、優しい時を刻んでいけたらと思います。



人は心

七夕会 (サンシルバー)

7月7日(水) 14:30~ 4階サロンにて七夕会を行いました。

職員は皆、浴衣姿に着替えての登場です。今回は専門学校の実習生も一緒に参加し、浴衣姿を披露してくれました。

ご利用者の方もいつもとは違う職員の姿に「きれいだね〜」等と声が上がっていました。実習生には「若いっていいね〜、かわいいねえ」等と声をかけ、ご利用者の方も笑顔で見られました。

短冊には、「いつまでも元気でいたい、おしゃれていたい」という願い事の他に、子どもや孫、家族の幸せを願う内容が書かれていました。

今日は伝説では年に一度、織姫と彦星が天の川を渡って会うことのできる特別な日です。梅雨時期ではありますが、皆で七夕の歌を唄い、天の川が見られることを祈りました。



子どもの日 (ゆうイング)

今年も昨年に引き続き、コロナ禍での端午の節句を迎えました。ゆうイングさわらびでは、徹底的に童心にかえていただく事をメインに、手作り兜で気分を盛り上げ、職員による童謡のサックス演奏と歌で子どもの頃を思い出して頂き、そしてその後の昼食もまた、子どもたちが大好きなメニューの盛り合わせ弁当を考案。耳で楽しみ、目で楽しみ、そして味も楽しんでいただく事が出来たのではないのでしょうか。



端午の節句会 (サンシルバーさわらび)

職員が折り紙でカブトを作り、それをこいのぼりの隣に見立て、入居者の方に手作りのこいのぼりに貼って頂きました。最近ではあまり外でもこいのぼりが泳いでいるところを見かけなくなりましたが、サンシルバーさわらびの2階フロアには【世界に一つだけのこいのぼり】が完成し、元気に泳ぐことができました。



もう一つの楽しみは“だるま落とし”!!

日頃、控えめな入居者の方も標的を目の前にすると、どうにかして落としてやる!と必死な姿がみられ、上手に落ちると周りからは拍手喝采。楽しい雰囲気でご過ごす事ができた1日でした。

これからも行事を通して、入居者の方の癒しの場につなげていければと思います。



引き続きコロナ対策

相変わらずのコロナ禍。大田市内でも感染が確認されるとどうしても面会等には敏感になり対面で会って頂くことが難しい状況になっております。

そんな中、以前も誌面でお伝えしましたが、リモート面会を当法人では行っております。

ゆうイングでは、看護師をしておられるお孫さんが、おばあちゃんにナース姿をお見せになり、家族だからこそ穏やかな笑顔が自然と出る姿がとても印象的でした。また、サンシルバーさわらびでは、遠方のご家族でも参加して頂けるようリモート担当会議を行ったり、看取りの方も顔を見て頂けたり、全国各地から入所しておられる方にリモートではありますが、面会して頂ける環境を整えております。



このコロナ禍はいつまで続くのか見当もつきません。しかしこの状況に対応していかないといけないのも現実です。コロナと上手に付き合い、ご家族の皆様にも少しでも安心感を得て頂けるよう努めて行きたいと思っております。

お誕生日カード

ゆうイングさわらびでは、ご利用者様のお誕生日カードに季節感あるモチーフを施しています。

一昨年は押絵、昨年は、細い紙を巻いて様々に形作る紙テープ工作。

さて、今年は何にしようか? これまでのお誕生日カードを見ていると、どれも工夫がなされていて、今までのクオリティーを落とせない。

せっかくのお誕生日、ご利用者様が楽しみに待っていて下さるようなお誕生日カードを作りたい!! ポツと音を立て、職員の創作魂に火がつけました。

頭を悩ませ、思いついたのが、つまみ細工。小さなパーツを幾つも作って組み合わせ、季節の花に仕上げてゆきます。

押絵



紙テープ工作



つまみ細工



サルが勝つか人が勝つか!

(グループホームさわらび)

「芋をそろそろ取らないけんじゃな〜い? サルが出て人間様より先に食べるけんね〜」それは大変だ! せっかく出来たジャガイモをサルに横取りされてはならないと急遽ジャガイモの収穫をすることになりました。ジャガイモを掘りながらもサルの話や今晚のおかずは何にする? など初夏の畑で話題は尽きません。太陽の下で清々しく収穫し「ほんなら、たばこ(休憩)するかな〜、この芋はちょっとこまい(小さい)が料理するにはいいじゃないか」と横取り回避作戦は終息し、「晩ご飯ごしらえ」という新たな作戦に向けて英気を養うグループホームの皆さんなのでした。



出来上がりを楽しみに、悪戦苦闘(笑)の初挑戦はしばらく続きます。

実習生発案レクリエーション！

サンシルバーさわらびでは、7月6日～29日（実質15日間）トリニティカレッジ出雲から実習生2名が学びに来ています。

実習内容には、学生自身が考えたレクリエーションを実施するという事も含まれている為、実際にご利用者と一緒に行いました。

内容は、ご利用者が2対2に分かれて、ピンポン玉をうちわで扇ぎ、より多く相手の陣地の中に入れた方が勝ちというゲームです。

お互い負けないように、うちわで扇ぐ人もあれば、“掟破りの秘技”をあみ出す方もおられ、皆さん闘志むき出しで楽しいゲームとなりました。見学の方も大きな声で応援をされていました。

普段は大人しく、レクリエーション活動にも消極的なご利用者の方も楽しめた様子に、学生からは「皆さんに喜んでもらえて良かったです。」という感想がありました。自分たちで考えたこのレクリエーションを通して少しでも学びに役立てて今後の糧となることを願っています。



おはなしのとびら～音を奏でるサンチャイルド～

昨年よりコロナの影響で劇の鑑賞などが制限され、園内での活動が増えていることから、何か独自の特色を活かした活動はないかと思い取り組んだのがこの“おはなしのとびら”です。



基本は紙芝居と音楽（歌）で、おはなしの中には劇も登場します。

おむすびころりん・ジャックと豆の木・アラビアンナイト…。保育士熱演の壮大なスペクタクル…とまではいきませんが、子どもたちも目をキラキラさせて興味を示し、真剣に見入っています。

この日のおはなしは“おおきなかぶ”。絵本から飛び出して子どもたちにも参加してもらい「うんとこしょ！どっこいしょ！それでもかぶはぬけません！」と掛け声も自然と出てきました。やっと抜けたときの喜びや、皆で協力した達成感など、おはなしを通して共有できる楽しみを育んでいきたいと思ひます。

登降園システムってご存知ですか？

この度、サンチャイルドでは6月より登降園システムを設置しました。

コロナ禍でICT化が急速に進み、保育園での生活様式も少しずつ変化してきました。

以前は忙しい時間帯に手書きで行っていた登降園の記録を、このシステムにカードをかざすだけでスムーズに記録が行えることもあり効率化はもちろん、密接を防ぐことができ感染症予防対策にもつながっています。

初めてのことで戸惑いもあったことと思ひますが、すぐに操作にも慣れていただき、現在は順調に稼働しています。

しかし登降園は、大切なお子様の受け渡しを行う重要な場面でもあります。システムを導入しても、お子様の安全はこれまでと変わらず第一に考え、受け渡しは保育士が責任をもって行うこととしております。

七夕会（ゆうイック）

引き続きコロナ禍の七夕会となりました。恒例の七夕の由来をお話した後、「七夕さま」に出てくる、最近では馴染みのない“のきば”や“きんぎんすなご”などの歌詞について皆さんで考え、そして夏の歌で盛り上がり、楽しんでいただきました。

しかし、それだけではありません。今年は、「日本語表現の豊かさを知る」をテーマに豊かな表現で想いを伝える言葉を七夕会の担当職員が、インターネットから探し出し、紹介しました。

中でもこの度は、七夕の情緒的なエピソードに因み、「愛」の表現をいくつか披露しました。

例えば…（インターネット【愛】を表す言葉15選より）

「月が綺麗ですね」…これは、文豪夏目漱石が英語教師時代に「I Love You」の訳として、「愛している」の代わりに生徒に紹介したのだとか。そこから派生した「雨がやみませんね」は「もう少しあなたのそばにいたい」、そしてその返事は、「綺麗な虹が見えますよ」となるそうです。

ストレートな言い回しが主流の現在では、このように言われても、相手の意を汲むことは困難です。自分の意見を堂々と伝えることも大切ですが、このような表現をしていた日本人の奥ゆかしさも大切にしたいと思ひつつ、彦星と織姫に思いを馳せたひと時でした。



愛は人
こころはあい

世界の料理

サンチャイルドでは今年の5月より“世界の料理”と称し、毎月1回誕生会の日にお楽しみ献立を行っています。

5月（韓国）6月（イタリア）7月（日本）…と続き、その国にちなんだ歌や踊りを皆で楽しんだり、世界地図にその国の旗を貼り世界制覇を目指しています。



5月誕生会

世界の料理（韓国）

- ・ピビンパおにぎり
- ・ヤンニョムチキン
- ・チャブチュ
- ・わかめスープ
- ・桃ゼリー

6月誕生会

世界の料理（イタリア）

- ・ロールパン
- ・ミラノ風チキン
- ・バーニャカウダ風
- ・ミネストローネ
- ・メロン

7月誕生会

世界の料理（日本）

- ・七夕冷やしうどん
- ・魚の竜田揚げ
- ・コーンサラダ
- ・ぶどう



▶イタリアの名曲「オーソレミオ」弾き語り（園長）



未来を繋ぐ

新型コロナウイルスの影響で1年遅れて開催された全国植樹祭。地元の三瓶で行われるということで、サンチャイルドもプランターの絵付けに協力しました。

子どもたちが書かせて頂いたプランターは、当日植樹祭の会場に飾って頂きました。

このプランターは大田市の木材を使い地域の皆様の力で作られたと伺いました。

『伐（き）って、使って、植えて、育てる』この大田市にある豊かな森林を次世代へ繋いでいくお手伝いが出来たことを嬉しく思ひ、また子どもたちに「緑を守り育てる気持ち」を伝えていきたいと感じました。



「ふれあいホーム(旧藤井保邸)」で〇〇がしたい!

地域に開放している施設「ふれあいホーム」(旧デイサービスセンターさんべ)で毎週火曜日の午前、地域の皆様が集うサロンを開いています。

そこに集まる皆様はいつも笑いに包まれ、そのおしゃべりの中から「ふれあいホームの清掃活動がしたい!」「ドライブがしたい!」「紙芝居づくりがしたい!」など様々な「〇〇したい!」が飛び出します。

そこでまずは、皆様の「したい!」気持ちに甘え、ふれあいホームの草抜きをして頂きました。「一人でする草抜きは大義だけど、(みんなと)一緒にすると楽しいが」と疲れも見せず綺麗に清掃して下さり、職員一同感謝、そして感激!!

次の「したい!」はドライブです。5月30日に植樹祭が終わったばかりの三瓶を一周しました。春の爽やかな晴天、そ

よ風に吹かれウキウキ気分です。「ここまで来たのは何年ぶりだろうか?」と若いころを思い出しながら、池のほとりを思い思いに散歩されていました。

その三瓶ドライブがきっかけとなり、「三瓶といえば、『浮布の池』っていう絵本があったがあ。紙芝居作ってみん?」「作ってみよーや」とまたまた次の「したい!」が誕生。

早速、絵具を持ち寄り、紙芝居づくりが始まりました。「あんだ、上手だねえ」「ありゃりゃ、はみ出したわ」と賑やかな笑いの中で紙芝居が出来上がっていきました。このように作られた紙芝居、「地域の学校や、グループホームで活用してもらえたらいいね。」と皆さんが楽しんでくれている姿を想像しながら、笑顔で話し合っておられました。

これからも、皆様の「〇〇したい!」気持ちを大切にしながら、さわらび苑を育て下さった、地元の皆様とその〈絆の華〉を咲かせ続けながら「交流したい!」と願うのです。

善意に感謝

奥出雲薔薇園(福岡厚社長)様より紫陽花の花を4鉢御寄贈いただきました。

夏の訪れを感じられる紫陽花は土によってその色は変わります。

放泉会の土はどんな色彩で私たちの目を楽しませてくれるのか…今から楽しみですね。



before

庭と駐車場に我が物顔で茂った雑草たち。とは言え雑草にしてみれば私たちが邪魔ものなのかもしれませんが、そんなことは言っていただけません。

梅雨の晴れ間、大量の草刈を決行しました。3台の草刈り機で刈っている傍らで、これまた、以前から気になっていた、池の掃除に着手。朱いフナが泳ぐその池の水は、緑色に濁り、フナの姿も見えませぬ。

まずは前日からフナの一時避難場所の準備。入れ物を持ち寄り、井戸水を張り一晩おいて温度を調整しました。水を抜いてフナを1匹ずつ掬い上げようとするのですが、素早い動きのフナ、そして長年の堆積物が視界を遮りなかなかうまくいきません。途中、作戦を練り直しながら30匹近くのフナを掬い上げました。

水を全部抜き、水で泥を洗い流し、再び水が張られた池で列をなして泳いだり、日陰で休んだり、長年見ることのできなかつたフナの姿と奇麗になった庭に満足。

「せっかく誰の目にも触れず悠々と暮らしていたのに!」とフナは思っているのかな?

それとも奇麗な水を泳ぐのはやはり気持ち良いと思ってきているのか?

きっと後者であることを信じ、稲積庵を訪れる方々をその優雅な姿でお迎えしてほしいと願うのでした。



after

後日談

自宅で飼っている鯉の稚魚を10匹程、職員が譲ってくれました。それも白。朱いフナと共に仲良く泳んでいます。

紅白の魚の泳ぐ池。「なんとめでたい!」と思っていたら、別の職員から自宅で飼っていたフナを引き取ってほしいとの申し出あり。成長著しく、水槽が小さくなり可哀そうとの事。そのフナは、なんとヒレが金色。一匹でも存在感がすごい! 益々めでたい池になりました。

令和2年度 会計報告

資金収支計算書

(自)令和2年4月1日 (至)令和3年3月31日

(単位:円)

勘定科目	決 算
介護保険事業収入	757,693,903
児童福祉事業収入	13,305,700
保育事業収入	155,972,930
その他の事業収入	250,000
借入金利息補助金収入	175,040
経常経費寄附金収入	4,065,000
受取利息配当金収入	441,318
その他の収入	2,321,093
事業活動収入計(1)	934,224,984
人件費支出	670,593,243
事業費支出	120,976,757
事務費支出	35,531,283
利用者負担軽減額	638,615
支払利息支出	2,153,245
流動資産評価損等による資金減少額	1,830
事業活動支出計(2)	829,894,973
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	104,330,011
施設整備等補助金収入	16,373,000
設備資金借入金収入	250,000,000
その他の施設整備等による収入	886,134
施設整備等収入計(4)	267,259,134
設備資金借入金元金償還支出	25,248,000
固定資産取得支出	1,162,526,557
その他の施設整備等による支出	363,000
施設整備等支出計(5)	1,188,137,557
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	△ 920,878,423
積立資産取崩収入	683,159,289
その他の活動による収入計(7)	683,159,289
積立資産支出	148,477,000
その他の活動支出計(8)	148,477,000
その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	534,682,289
予備費支出(10)	0
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)	△ 281,866,123
前期末支払資金残高(12)	614,706,501
当期末支払資金残高(11)+(12)	332,840,378

事業活動計算書

(自)令和2年4月1日 (至)令和3年3月31日

(単位:円)

勘定科目	決 算
介護保険事業収益	757,693,903
児童福祉事業収益	13,305,700
保育事業収益	155,972,930
その他の事業収益	250,000
経常経費寄附金収益	4,065,000
サービス活動収益計(1)	931,287,533
人件費	658,855,243
事業費	121,046,757
事務費	35,531,283
利用者負担軽減額	638,615
減価償却費	108,718,321
国庫補助金等特別積立金取崩額	△ 19,979,292
徴収不能額	1,830
サービス活動費用計(2)	904,812,757
サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)	26,474,776
借入金利息補助金収益	175,040
受取利息配当金収益	441,318
その他のサービス活動外収益	2,321,093
サービス活動外収益計(4)	2,937,451
支払利息	2,153,245
サービス活動外費用計(5)	2,153,245
サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)	784,206
経常増減差額(7)=(3)+(6)	27,259,982
施設整備等補助金収益	16,373,000
その他の特別収益	70,000
特別収益計(8)	16,443,000
固定資産売却損・処分損	259,517,735
国庫補助金等特別積立金取崩額(除)	△ 101,410,098
国庫補助金等特別積立金積立額	16,373,000
災害損失	0
特別費用計(9)	174,480,637
特別増減差額(10)=(8)-(9)	△ 158,037,637
当期活動増減差額(11)=(7)+(10)	△ 130,778,655
前期繰越活動増減差額(12)	1,347,833,437
当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)	1,217,054,782
基本金取崩額(14)	0
その他の積立金取崩額(15)	614,159,289
その他の積立金積立額(16)	79,477,000
次期繰越活動増減差額(17)=(13)+(14)-(15)-(16)	1,751,737,071

編集委員のつづき

いつまでも収まる様子がないコロナウイルスに振り回される日々ですが、庭に目をやると紫陽花から向日葵へと季節の花々はいつもと同じように移り変わっています。

見えない敵というものは厄介なものです。終わりが見えないのですから…。

同じように自然も私たちに恵みをもたらしてくれる反面、時に脅威を与える存在でもあります。そんな目には見えない敵に打ち勝つために、予防や備えは最大の武器なのだと思知らされる今日この頃です。コロナに罹患された方々、天災の被害に遭われた方々の、ご回復を祈りつつ…。

(編集委員:小川 景・佐竹美香)